

# A I 活用推進対策 特別委員会資料

令和8年5月15日（金）  
教育委員会

1	GIGAスクール構想について	3
2	学校教育における生成AI活用に関する国の動向	4
3	これまでの生成AI活用の推進に向けた本県の取組【令和7年度】	5
4	今後の生成AI活用の推進に向けた本県の取組【令和8年度】	6
	(参考) 本県におけるこれまでのICT活用に関する取組	7
5	その他のAI活用に関する本県の取組	8-9

# I GIGAスクール構想について

## (1) GIGAスクール構想【第1期(令和元年～)】

### ● 1人1台端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備

- ✓ 1人1台端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育環境を実現する。
- ✓ これまでの我が国の教育実践と最先端のベストミックスを図ることにより、教師・児童生徒の力を最大限に引き出す

## (2) GIGAスクール構想【第2期(令和6年～)】

- 1人1台端末の更新
- 生成AIをはじめとする先端技術への対応
- デジタル化や業務の効率化を目指した校務DXを推進

### 生成 AI

あたかも人間と自然に会話しているかのような応答や、情報の収集・整理・分析結果等の出力が可能であり、文章の素案作成やイメージの生成、語学学習における利活用、プログラミングコードの生成等、様々な場面での利活用が広まっている。

次期学習指導要領（2030年度から小学校より順次改訂予定）の議論においても、情報を適切に収集、整理、比較、発信するなど教科横断的に育成すべき**情報活用能力（生成AIの活用を含む）の抜本的な向上**や質の高い探究的な学びの充実が重視されており、今後もデジタル学習基盤を前提とした学びを一層推進することとなっている。

## 2 学校教育における生成AI活用に関する国の動向

### (1) 初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン（令和6年12月）

学校現場における生成AIの利活用について、  
次のような**基本的な考え方や留意事項**が整理されている。

- 生成AIの活用は、教育活動の目的達成に資する場合に行うこと
- 情報の真偽を確かめる力や、適切に活用する態度を育成すること
- 個人情報、著作権、情報セキュリティ等に十分留意すること
- 教員が生成AIの特性やリスクを理解した上で活用すること

### (2) 文部科学省 令和6年度補正事業

生成AIを活用した教育課題の解決・教育DXに向けた実証（予算額：6億円）  
学校現場における生成AIの効果的な活用を進めるために実証研究を行い、  
**活用事例の創出や成果を横展開**

- 生成AIを活用した授業改善や探究的な学びの充実
- 教材作成、評価、文書作成等における校務負担の軽減
- 活用に当たっての留意点や運用方法の整理
- 実証成果の全国的な共有・普及

### 3 これまでの生成AI活用の推進に向けた本県の取組【令和7年度】

#### 文部科学省 令和7年度 生成AIパイロット校事業への参画

県立学校2校において校務利用に関する実証研究を実施  
学校の実態に応じて、**生成AIを活用した業務改善**に取り組み、活用事例の創出

#### 【県立延岡星雲高等学校】

- 教材作成や授業準備における生成AIの活用
- 校内文書、通知文、報告文等の作成支援
- アンケート結果や記録の要約・整理
- 教職員の校務負担軽減に向けた活用方法の検証

#### 【県立小林秀峰高等学校】

- 生徒の学習状況や提出物等を踏まえた評価支援
- 教材・課題・振り返り資料等の作成支援
- 校務文書の作成、整理、確認作業の効率化
- 生成AI活用に係る校内ルールや留意点の整理

令和7年度生成AIパイロット校事業 生成AIパイロット校

### 生成AI成果報告 (校務利用)

宮崎県立延岡星雲高等学校

#### 1 導入背景・目的

- 生成AIを活用することで校務の効率化や業務改善を図る。
- 教員が文書作成の際に、補助的な利用をしたい。
- 校務関連でデジタルチャットが活用したい。
- 生成AIを活用することで、いつでもどこでも活用できる環境を整えたい。
- 生成AI活用から文書作成に活用し、そのテキストから会議の議事録を作成したい。

#### 2 利用方法・環境

##### ① 文書作成補助 Gemini

文書(授業計画や文書、会議資料等)の作成を補助するために Gemini を活用する。3 学年担任の職務を中心に、調査や学習指導書などのたたき台を Gemini の Canvas 機能を活用して作成する。

##### ② 音声からの議事録作成 Microsoft Teams

会議の音声を Teams で録音(録音承認が必要)し、録音後、Gemini や Google AI Studio に音声を読み込ませる。その後、テキスト化したものから会議の議事録を作成する。

##### ③ 校務支援マニュアル NotebookLM

本県の成績評価システム「校務支援システム」のマニュアルを NotebookLM に読み込み、AI が質問に答えるチャット機能を利用する。

#### 3 その他事例

##### ポータルサイト Gemini

本校職員による生成 AI 活用実証事例をポータルサイトで共有している。

- 活用: Gemini と Google AI Studio の活用
- 活用: 授業準備の効率化
- 活用: 1対1のチャットでの生成
- 活用: 英語・国語の生成
- 活用: 英語のリスニング・発音指導の生成
- 活用: パフォーマンス向上の生成
- 活用: 授業方法の助言
- 活用: 英語入試問題の生成

#### 4 成果検証

項目	割合
導入後の業務効率化	66.6%
導入後の業務負担軽減	60.1%
導入後の業務改善	54.3%
導入後の業務効率化	80.0%
導入後の業務負担軽減	51.20%
導入後の業務改善	41.20%
導入後の業務効率化	38.89%
導入後の業務負担軽減	38.89%
導入後の業務改善	38.89%

効果に対するコメント

- 会議の議事録作成が楽になった上、わかりやすくなる。
- 授業準備のたたき台作成で業務がしやすくなった。
- 授業計画や、動画の作成が楽になった。
- 小論文添削で文章表現のチェックに活用。
- プロンプトメーカーを作成し、プロンプト自体をAIに作成させている。
- 個別の活動計画やスケジュールなどを多岐にわたって作成している。

#### 取組の課題・改善点

- プロンプトの書き方が分からない。
- 操作手順に関する疑問について他の実践例等の情報収集していく必要がある。
- AI シミュレーション (後の活用) を実践した上で、プロンプトチェックや確認となるツールを開発する。

提供情報部 SEIUN AI PROJECT

### 生成AI校務利用成果報告

(宮崎県立小林秀峰高等学校)

#### 導入背景・目的

先生方の声  
「文書を作成する際にアイデアが欲しい!」  
「授業でデジタルチャットを使うと便利だ!」  
「各員の業務負担軽減が目的である!」  
「生徒生活を支援して、業務の効率化と向上を期する。」

#### ポータルサイト

詳しくは  
こちら!

<https://sites.google.com/gj/miyazaki-c.ed.jp/share2?usp=sharing>

#### 生成AI活用

- ① Gemini を使って文書作成補助
  - 授業支援プラットフォーム
  - 全県教員研修プラットフォーム
  - 校務支援システム
  - 全県教員研修プラットフォーム
  - 校務支援システム
- ② NotebookLM を使ってマニュアル検索
  - Microsoft Teams で授業計画を文書として保存
  - Gemini でテキストから議事録を作成
  - NotebookLM を 1 対 1 会話、スライド等作成
- ③ Teams × Gemini × NotebookLM で議事録作成
  - Microsoft Teams で授業計画を文書として保存
  - Gemini でテキストから議事録を作成
  - NotebookLM を 1 対 1 会話、スライド等作成

#### 活用推進の軌跡

- 生成 AI 専科公開学習会 (7 月)
- 生成 AI 導入前アンケート (9 月)
- 生成 AI スキルアップ講座 (12 月)
- 文部科学省学校DX戦略アドバイザー研修 (8 月)
- 生成 AI 先進企業先遣隊等研修 (1 月)
- 生成 AI 導入後アンケート (1 月)

#### 成果検証

導入による効果と教員の評価 (1 月調査)

項目	割合
業務効率化	28.3%
業務負担軽減	19.5%
業務改善	12.2%
業務効率化	71.1%
業務負担軽減	53.3%
業務改善	53.3%

AI は「効率化のツール」  
業務効率化や業務負担軽減に効果的です。

#### まとめ

多くの教員が校務における生成AIの有効性を肯定的に評価しており、多様なツールを活用を通じた業務改善の目的が明確に実現した。さらなる活用拡大に向けては、幅広い回答を引き出すためのプロンプト研修の充実や研修に関する理解を深める必要がある。

教職員の半分以上が生成AIを校務で活用する県立学校の割合は  
令和6年度 | 3% から 令和7年度 50% に増加

## 4 今後の生成AI活用の推進に向けた本県の取組【令和8年度】

### 国のガイドラインに準拠した活用推進

本県では、国のガイドラインを踏まえ、学校現場における生成AIの適切な利活用を推進している。令和8年度は、

「生成AIの**教育利用を**探求する年度」

と位置付け、県と市町村が共通の方向性を持ちながら、県内公立学校における活用を段階的に進めていく。

活用に当たっては、

生成AIを使うこと自体を目的とするのではなく、

**教育活動の目的達成に効果的であるか**

という観点を重視。

具体的には、次の2つの視点から取組を進める。

●教材作成、文書作成、情報整理等における校務負担の軽減

●児童生徒の学びを深めるための教育活動での活用検証

これらの取組を通して、

**教育の質の向上と教職員の働き方改革**の両立を図る。

宮崎県教育委員会 令和8年度、教育利用のパイロット校を指定予定！

「考える」きっかけを、AIとともに **生成AI活用** 推進します

使うことが目的じゃない。“達成”のために使う。

令和7年度 **校務利用** 生成AIパイロット校  
県立延岡星雲高等学校、県立小林秀峰高等学校  
日南市立桜ヶ丘小学校、日南市立油津小学校、日南市立油津中学校

令和8年度 **教育利用** 生成AIパイロット校

宮崎県では **令和8年度** 教育効果を高める事例を創出していきます

- 授業でひろがる！生成AIパイロット校の挑戦
  - ・基礎から応用まで、ステップアップできる授業事例を開発
  - ・教科ごとの活用場面を整理し、**学びの質を高める実践**を創出
- 広げよう！生成AI活用の輪
  - ・県主催の教員向け研修会・学習会を開催
  - ・成果を共有する報告会で次の一歩へ

事例創出  
パイロット校  
協力校

創出された利活用事例の普及

- グループ活動の途中で一定の議論を整理し、足りない視点を見つけて議論
- 英会話の相手、自然な表現の改善、単語・例文リストの作成
- プログラミング授業で、児童生徒のアイデアを実現するプログラム制作
- 教科書内容を進度に合わせて理解するため、解説やイメージを提示し理解 など

教育利用にあたっての留意事項

児童生徒の生成AI活用について

- ・各学校で **教職員の研修等**を実施
- ・児童生徒へ **生成AI活用の学習**を実施してから利用すること

- ✓ 個人情報や機微な情報の入力を行わないこと
- ✓ 出力された情報の正確性を必ず確認すること
- ✓ 著作権や倫理的観点に十分配慮すること
- ✓ 児童生徒には、生成AIの限界や使い方について適切な指導を行うこと
- ✓ 保護者への説明に際しては、誤解を招かないよう丁寧な対応をすること

宮崎県教育庁 教育政策課 政策・情報化推進担当 ☎ 0985-26-7276

## (参考) 本県におけるこれまでのICT活用に関する取組

### リーディングDXスクール事業【令和7年度】

#### 【事業内容】

小中高等学校の指定校において、GIGA端末の標準仕様に含まれる**汎用的なソフトウェア**や**クラウド環境**を十分に活用した効果的な教育実践を創出・モデル化し、その成果を地域や校種を超えて全国に展開することで、すべての学校における**ICTの「普段使い」を一層推進**する。

#### 【指定校が実施した具体的な内容】

- 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
- インターネット上の動画教材の活用、外部専門家によるオンライン授業の実施
- 端末の日常的な持ち帰りによる家庭学習の充実等
- 校務の徹底的な効率化や対話的・協働的な職員会議・教員研修
- 実践内容を動画・写真、研修のオンライン公開などにより地域内外に普及

#### ／都城市／

リーディングDXスクール指定校

##### 指定校

丸野小学校  
志和池小学校  
志和池中学校

##### 基調講演

小崎 誠二 氏

東京教育大学大学院  
教育科学研究科 スクールDX研究室 教授  
奈良市教育CIO補佐  
奈良市教育委員会  
スクールDXプロジェクトマネージャー



##### 授業公開日時

11月18日(火)  
8:40～16:00  
受付

都城市  
リーディングDX  
スクール事業  
公式サイト



#### ／西米良村／

リーディングDXスクール指定校

##### 指定校

村所小学校  
西米良中学校

##### 基調講演

山本 朋弘 氏

中村学園大学 教育学部  
児童幼児教育学科 教授



西米良村リーディングDX  
スクール事業公式サイト

##### 授業公開日時

(小)【オンライン】  
9月19日(金) 13:15 受付～14:40  
(中)【対面・オンライン】  
11月21日(金) 13:10 受付～16:00



#### ／延岡市／

リーディングDXスクール認定校

##### 指定校

延岡小学校  
岡富小学校  
岡富中学校

##### 基調講演

泰山 裕 氏

中京大学  
教養教育研究院 教授



##### 授業公開日時

12月4日(木) 8:00～16:00

## 5 その他のAI活用に関する本県の取組

事業名	取組の概要	成果等	今後の方向性
ひなたDXハイスクール事業	県立学校の指定校16校において、情報Ⅱ等（生成AIを含む高度な情報教育に関する科目）を実施	①情報Ⅱ等（生成AIを含む高度な情報教育の科目）を受講している生徒（指定校16校）の割合 R7年度 54.4%  ②数理やデータ又はAIを活用しながら、問題の解決に向けて探究することができると回答した生徒（指定校16校）の割合 R7年度 43.7%	補助対象経費で整備した高度なデジタル環境（ハイスペックPC等）を活用し、情報Ⅱ等の実施を推進。  AIを活用した高度な情報教育の実践事例を集約・発信し、指定校以外の県立学校への普及を図る。
	五ヶ瀬中等教育学校 「データサイエンス」において、AIを活用したビッグデータの分析に関する学習及び実習を実施【R7～R8】	①外部コンテストに参加した生徒数（延べ数） R7年度 67人  ②外部人材を活用した講義及び実習の回数（延べ数） R7年度 27回	職員や生徒だけでは習得することが困難な技術について、専門家による講義、研修を企画し、生徒の探究力向上を図る。
	日南振徳高等学校 「AI・データサイエンス演習」において、AIを活用した物体検出、ウェブアプリ開発に関する実習を実施【R7～R8】	①外部コンテストに参加した生徒数（延べ数） R7年度 142人  ②外部人材を活用した講義及び実習の回数（延べ数） R7年度 61回	最先端のAI及びデータ分析ツールを駆使し、地域課題解決と社会実装に挑むことができるDX人材の育成を図る。
	AIを活用した探究活動に関する生徒向けセミナー（指定校16校から選抜）及びコンテスト（全ての県立学校に公募）を実施【R7】	①セミナーに参加した生徒数（年間6回） R7年度 16名  ②コンテストに参加した生徒数（12月） R7年度 35名	ネクスト・ハイスクール事業と連携し、デジタル教育に関する生徒セミナーを企画・運営する。
ひなた教育DX整備事業	高校入試採点のデジタル化（百問繚乱の導入）	記号問題や数式などはAIが自動的に採点したり、採点に合わせて小計や合計点を算出するなど採点時間の削減につながった。 一方、配点設定の課題が残った。	デジタル化により採点作業の迅速化を目指しながら、採点における公平性の向上を目指す。

## 5 その他のAI活用に関する本県の取組

事業名	取組の概要		成果等	今後の方向性
学びに向かう力を育む AI教材活用事業	AI教材（単元テスト、ドリル）を小5、中2全員に導入【R7～8】		一人一人の学習状況に応じた学習、採点や分析時間の削減	確実な活用を図り、学習内容の定着と授業改善につなげる。
	新富町立 富田小学校	AI教材デジタルドリルを活用し、児童が個々の学習課題に応じた学習に取り組んでいる。	即時自動採点により、結果を把握した直後に解説を行うことで意欲向上が見られた。個人面談では分析ツールを用いて詳細な学習状況を説明している。	児童がどの問題をどのように間違えたのか、保護者と共有する方法について検討する。
	宮崎市立 潮見小学校	授業の導入で活用し、児童が主体的に教材を選択することで学習習慣の定着を図っている。単元テストを実施後、再度同じテストに取り組ませる。	既習内容の定着確認と、再挑戦の機会を確保することで、基礎学力の定着につなげることができている。	標準学力検査を1つの指標として検証する予定。その結果の分析を踏まえ、さらに効果的な活用方法を検討する。
	都農町立 都農中学校	AIによる習熟度別の問題提供と、リアルタイムの進捗把握による個別指導を徹底。授業終末に課題を配信し、本時の定着を図っている。	デジタルドリルを活用することで、生徒は短時間で効率よく復習でき、教員はリアルタイムで把握できるため、個別の指導に生かすことができる。	全ての先生方が授業の中で使っていけるように、学校内での活用促進を進めていく。
	川南町立 通山小学校	復習や学習内容の定着を目的に、授業の導入やまとめの時間で活用。	学習内容の定着と同時に、ドリルを解き進めていくと「ポイント」や「メダル」が獲得できるため、児童の学習意欲を高めることができる。	児童自らが設定した到達目標を教師が把握し、児童一人一人に合った目標となるよう適切に助言していく。
AIを活用したグローバル人材育成のための英語教育強化事業	英語AIアプリを10校（中学校6校、高校4校）に導入【R8】		英語の授業での個別最適な学びの実現、授業における言語活用の更なる充実	授業活用モデルの研究とその発信、英語力測定による効果の検証